

次の問1，問2については1問を選択し，答案用紙の選択欄の問題番号を○印で囲んで解答してください。

なお，2問とも○印で囲んだ場合は，問1について採点します。

問1 ソフトウェアの受託開発会社における，工事進行基準適用に関する次の記述を読んで，設問1～4に答えよ。

Y社は，ソフトウェアの受託開発会社である。四半期財務報告制度の導入を機に，ソフトウェア受託開発（以下，プロジェクトという）の契約に関して，工事収益（以下，売上という）と工事原価（以下，原価という）の計上に，今年度の開始月に当たる平成21年4月から，工事進行基準を適用している。

前年度までは，プロジェクトが完了し，成果物が検収された時点で売上や原価を一括計上する，工事完成基準を適用していた。

工事進行基準では，売上の総額や予想される原価の総額，及び決算日における工事進捗度（以下，進捗度という）を合理的に把握し，これに応じて四半期ごとに売上と原価を計上することが求められる。

進捗度の算出には，原価比例法と EVM 法 を検討した結果，管理の容易さと普及の状況から，原価比例法を採用している。原価比例法は，決算日までに実施した作業に関して発生した原価が，予想される原価の総額に占める割合をもって，進捗度とする手法である。

〔プロジェクトの会計処理〕

- (1) 顧客との契約金額は，開発規模などから原価を算出した後，目標利益率を考慮して決定することを基本にしている。
- (2) プロジェクトマネージャは，プロジェクト開始前に，プロジェクトの開始予定日から終了予定日までの月別の人件費，経費などの予算を作成する。
- (3) プロジェクトでは，メンバから報告される作業実績時間を定期的に集計し，人件費の実績を計上する。また，受領した請求書に対する支払が承認された時点で，経費の実績として計上する。
- (4) プロジェクトでは，定期的に原価の実績と予算，及びそれらの累積差異を確認する。また，状況によっては予想される原価の総額を見直す。
- (5) 四半期ごとの原価の実績に応じて，各四半期の売上と原価を計上する。
- (6) プロジェクトが完了し，成果物が検収された時点で，残りの売上を計上する。

- (7) プロジェクトでは、予想される原価の総額が売上の総額を超過することがある。その場合は、超過すると見込まれる額（以下、損失という）のうち、既に計上された損益を控除した残額を、損失が見込まれた四半期に工事損失引当金として計上する。

〔販売管理システム開発プロジェクト〕

- (1) 平成21年4月、Y社は販売管理システム開発の受託契約を締結した。売上の総額となる契約金額は50,000千円である。プロジェクトは契約後すぐに着手し、3四半期（9か月）で完了する予定であった。
- (2) 平成21年10月現在、プロジェクトは7か月目に入っている。第2四半期末において、予想される原価の総額は、第1四半期末の48,000千円から52,500千円に増加した。
- (3) 各四半期で算出された売上の総額と予想される原価の総額、決算日における進捗度は表のとおりである。

表 第1から第3四半期までの売上・原価・進捗度の推移

単位 千円

	第1四半期	第2四半期	第3四半期 (予定)
売上の総額	50,000	(ア) 50,000	50,000
前四半期までに発生した原価の累計	－	(イ) 12,000	37,800
当四半期に発生した原価	12,000	(ウ) 25,800	14,700
完了までに要する原価	36,000	(エ) 14,700	－
予想される原価の総額	48,000	(オ) 52,500	52,500
損益の総額	2,000	(カ) -2,500	-2,500
決算日における進捗度	a %	(キ) 72.0%	100.0%

(4) 第2四半期末の工事損失引当金を求める式は、次のとおりである。

第2四半期末の工事損失引当金

$$\begin{aligned} &= \boxed{\text{b}} - \text{第1四半期に計上した損益} - \text{第2四半期に計上した損益} \\ &= (\boxed{\text{c}} - \boxed{\text{d}}) \\ &\quad - (\text{第1四半期に計上した売上} - \text{第1四半期に計上した原価}) \\ &\quad - (\text{第2四半期に計上した売上} - \text{第2四半期に計上した原価}) \end{aligned}$$

設問1 [販売管理システム開発プロジェクト] について、(1)、(2)に答えよ。

- (1) 表中の $\boxed{\text{a}}$ に入れる適切な数値を答えよ。答えは小数第2位を四捨五入して、小数第1位まで求めよ。
- (2) 本文中の $\boxed{\text{b}}$ ~ $\boxed{\text{d}}$ に入れる適切な数値を、表中の(ア)~(キ)の中から選び、記号で答えよ。

設問2 Y社の状況について、(1)、(2)に答えよ。

- (1) 工事進行基準を適用したことによるメリットを、35字以内で述べよ。
- (2) 本文中の下線部の説明を、解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

- ア プロジェクトの進捗を、開始日から終了予定日までの全期間に対する、開始日から現在までの期間の割合を基に算出する手法
- イ プロジェクトの進捗を、作成すべきソフトウェアの総量（本数やステップ数など）に対する、現在までに完成した量の割合を基に算出する手法
- ウ プロジェクトの進捗を、出来高の価値によって定量化し、プロジェクトの現在及び今後の状況を評価する手法

設問3 [プロジェクトの会計処理] について、(1)、(2)に答えよ。

- (1) 原価の実績を把握するときに、留意すべき事項を答えよ。
- (2) 工事損失引当金の計上の要否を判断するために把握しなければならない項目を答えよ。

設問4 Y社の平成21年度の期末決算は、受注したプロジェクトの状況が例年と同様であったとすると、平成20年度と比して、売上が増加すると考えられる。その理由を35字以内で述べよ。